

### 2-1-5 新潟市における土砂災害リスク

新潟市の南部に位置する新津丘陵や西部に位置する弥彦・角田山周辺において、土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等が指定されている。指定位置は図2-14のとおりである。

また、新潟砂丘周辺には急傾斜地崩壊危険箇所等が点在しているが、調査および法による指定はまだ実施されていない状況である。

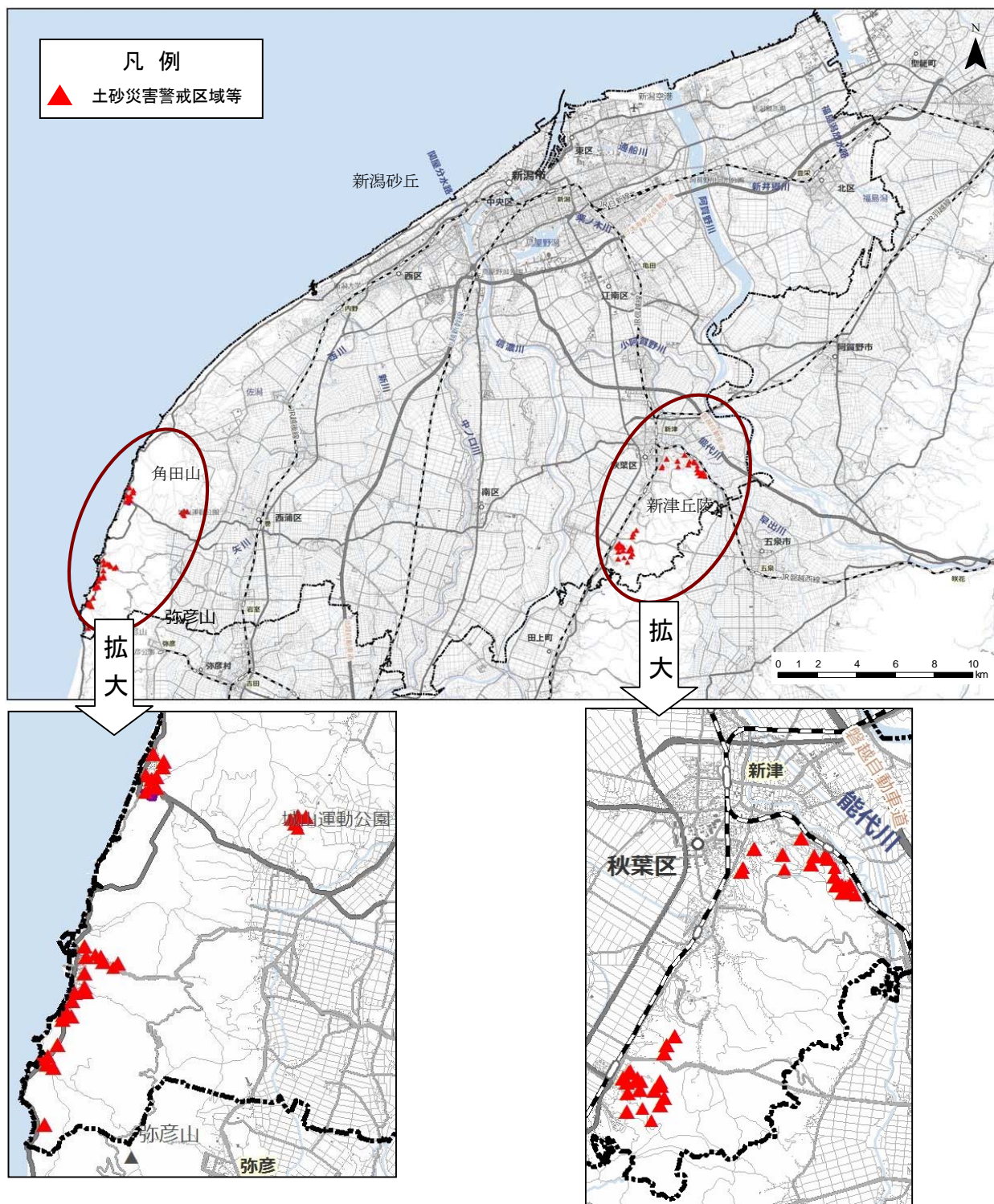


図2-14 土砂災害警戒区域等の分布図

出典：新潟市資料

## 2-2 新潟市における土地利用等の状況

### 2-2-1 土地利用等に関する情報整理

新潟市の災害リスクと土地利用の関係性を把握するために、市街化区域、DID、高齢化率、昼夜間人口比、防災拠点の配置等の土地利用等に関する情報を以下の視点で整理した。

表 2-3 災害リスクと土地利用等の情報整理

土地利用等に関する情報	災害リスクと土地利用等の関係の分析の視点
市街化区域	<p>■災害リスクに対する将来の都市の現状を評価</p> <p>将来の市街地が、災害の影響をどの程度受けるのかという視点から、災害の影響範囲との重ね合わせを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市街地の状況を把握する要素として、【市街化区域】(概ね 10 年以内に市街化を図る区域として位置付けられる区域)を整理する。</li> </ul>
DID (人口集中地区)	<p>■災害リスクに対する現在の都市の現状を評価</p> <p>現在の市街地が、災害の影響をどの程度受けるかの視点から、災害の影響範囲との重ね合わせを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市街地の状況を把握する要素として【DID】を整理する。</li> </ul>
高齢化率 昼夜間人口比	<p>■災害発生時の地域住民による災害対応が比較的困難な地域の現状を評価</p> <p>災害発生時の地域住民による対応に課題があると想定される区域が、災害の影響をどの程度受けるかの視点から、災害の影響範囲との重ね合わせを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民による対応に課題があると想定される区域を把握する要素として、【高齢化率の高い地区】(高齢者＝災害時要援護者が多い地域)を整理する。</li> <li>昼夜間人口比が極端に低い場合や極端に高い地域は、コミュニティによる助け合いを期待しにくいことが想定される場合があることから、地域住民による対応に課題があると想定される区域を把握する要素として、【昼夜間人口比】を整理する。</li> </ul>
防災拠点	<p>■災害時の防災拠点の現状を評価</p> <p>災害時の防災拠点となる施設が、災害の影響をどの程度受けるかの視点から、災害の影響範囲との重ね合わせを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害時において特に配慮を要する施設として防災上の重要施設を整理する。</li> </ul>



## 2-2-2 新潟市における市街地の特徴

### (1) 市中心部における市街地拡大の状況

新潟市における市街地は、当初は現在の新潟島（万代島）周辺のみであったが、図2-15の赤色の点線で示すように、明治44（1911）年から平成3（1991）年までの80年間の間に市街地が拡大している。

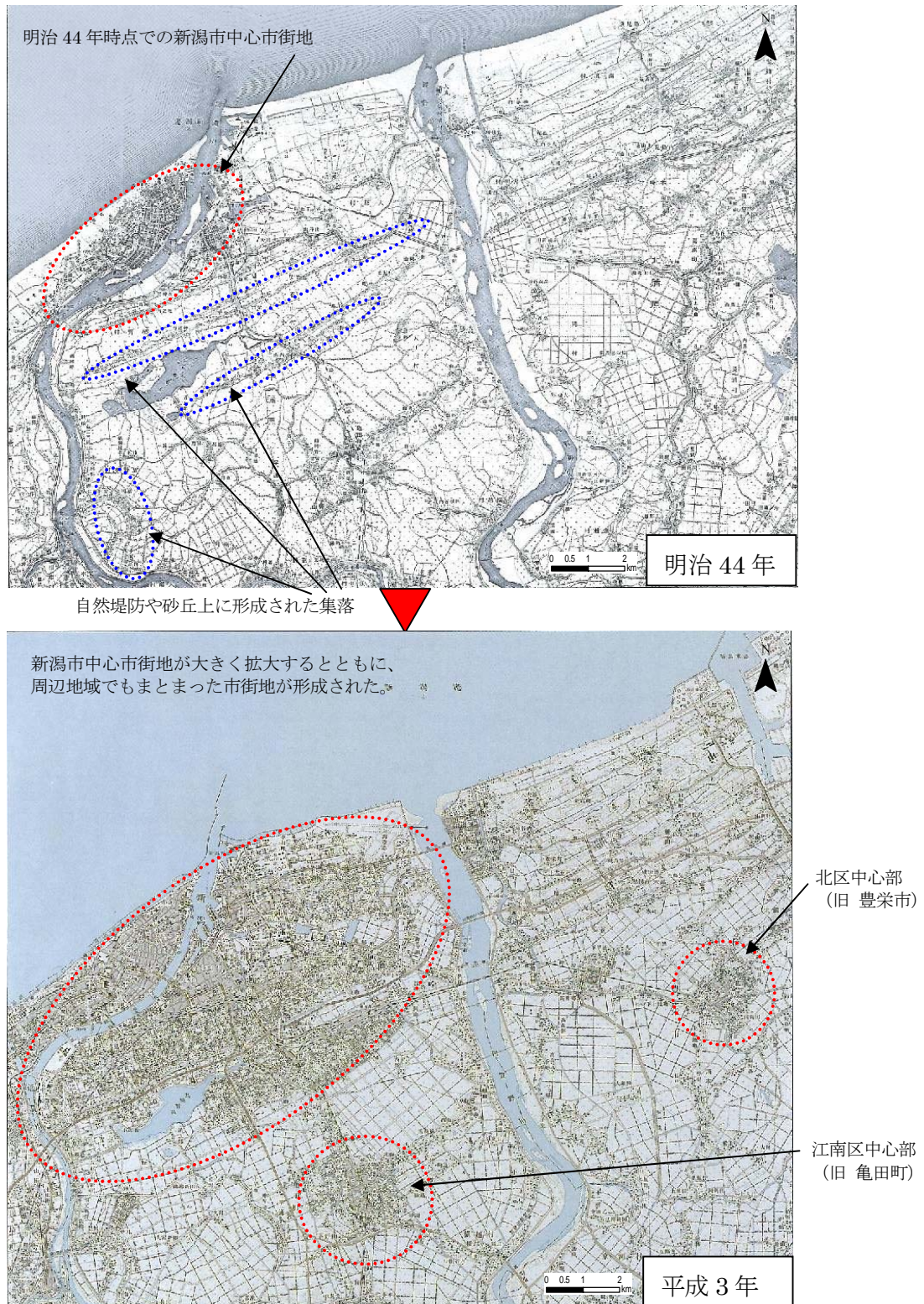


図2-15 市街地の拡大状況

出典：新潟市、「新潟市史 資料編12 自然」（平成3年）